

初級フランス語クラスにおけるロールプレイ・ドラマの活用法

治山純子

本発表では、フランス語教育におけるロールプレイやドラマの役割と活用法について考察する。外国語教育におけるこのような活動は、コミュニケーション・アプローチで評価されており、学生が理解可能な相当量のインプットに触れられる点、学生が積極的にアクティビティに参加する点、学生が目的を持って自己表現をする場が与えられる点などから推奨されている。コミュニケーション・アプローチでは、文法の正確さ以上に目的を達成するためのコミュニケーションがとれることが重視されることが多い。しかし本発表では、ロールプレイやドラマなどの活動はコミュニケーション能力を高めるだけでなく、文法項目を習得するのにも役立つことを主張する。なぜなら、学生は自分が作ったスクリプトを教師に訂正されることで自分の間違いに気づき、また修正されたものを暗唱することで記憶への定着化が図られるためである。

またこのようなドラマ活動は、中級から上級程度の学生にのみ適用されると主張されることが多い。だが本発表では、全くの初心者でフランス語を始めたばかりの状態の学生からロールプレイ、創作ドラマの活動を適用することができることをフランス語のクラスの実例（学期の中間時点と期末における2回のドラマ活動の様態とアンケート結果）と共に示す。そしてむしろ完全な初心者の段階から始めることの利点について考察する。

頻繁に議論される問題であるロールプレイやドラマを行う際の学生の精神的プレッシャーに関しては、日常の授業におけるダイアログの暗唱により攻略できることを示す。

最後に、ロールプレイやドラマなどの活動の利点として、インプットとアウトプットの繋がりを構築できる点、意味のあるコミュニケーション場面の設定をすることにより日常生活に役立つ点、状況に即した目標言語におけるジェスチャー・表情なども自然と身につく点、文法的正確性も身につく点などを指摘し、その有効性を主張する。